

瀬戸学区まちづくり推進委員会

委員長 奥野 英幸

（問合せ先） 084-951-1003（瀬戸交流館）

事業内容

- (1) 瀬戸小学校児童育成 (3月25日)
- (2) 公民館サークル育成 (8月～3月)
- (3) 公民館まつり (3月11日～18日)
- (4) 自主防災活動 (11月18日・25日・28日)
- (5) 避難行動要支援者の支援活動 (通年)
- (6) 料理教室 (12月10日)
- (7) 史跡めぐり (11月6日・11日・16日・18日)
- (8) 情報紙発行 (通年)
- (9) 町民納涼夏まつり盆踊り大会 (8月6日 中止)
- (10) 町民大運動会 (10月16日 中止)
- (11) とんど (1月15日)
- (12) 体かづくり運動 【中止】
- (13) 人・まち・ふくしまルシェ2022 (11月13日)
- (14) コミュニティ育成 (通年)
- (15) 環境美化活動 (6月19日・12月4日・9月中)
- (16) 第22回ふれあいグラウンドゴルフ大会 (11月12日)
- (17) ふれあい健康大会 (11月19日・26日・12月3日・2月25日)
- (18) まちづくり推進委員会運営 (通年)



【サークル育成：手打ちそば作り】



【とんど】

成果

コロナ禍にあって、事業の開催が危ぶまれたが、関係団体と調整しながら事業12以外は実施に向けて活動することができた。学区外の研修等バスを使う事業についても、多くの参加者があり、地域内に笑顔が戻りつつあると実感できた。また、推進委員を中心に各種団体役員、地域住民との交流も図ることができ、地域の課題解決や活性化を図るための意識を高めることができた。

課題

各種団体役員や地域住民に対して、まちづくり推進事業についての周知に努める必要がある。また、より多くの地域住民に参加してもらえよう、今まで以上に広報活動に努める必要がある。

課題解決にむけて

推進委員を中心に、各種団体役員をはじめ地域住民に対して、まちづくり推進事業の周知のため、会議での丁寧な説明やたよりを使うなど広報に努める。類似事業の統合や委員会の開催など計画を立てる。

事業については、内容を検討しながら、次年度につなげていく。

EVAG を活用し、災害時の避難行動を考える！

事業3：自主防災活動事業

《EVAG を活用した避難行動の疑似体験》

～災害時における「自助・共助」の重要性を考える～

年度当初は『瀬戸学区第9回防災訓練』を計画していましたが、コロナ禍にあって、全体での訓練はしないという判断をしました。そこで、自主防災協議会役員・自治会長を中心に3回に分けてのリーダー研修会を開催しました。

テーマは、《EVAG を活用した避難行動の疑似体験》です。EVAG とは、避難行動訓練ゲームのことを言い、小グループに分かれ、自身と異なる環境にある住民の立場に立ち、実際の避難行動時の判断を行う中で生じる課題等を疑似体験するものです。豪雨災害時に災害情報を受け取った個人が、避難行動とその行動によって起きる様々な判断、課題などを疑似体験することで、災害時における「自助・共助」の重要性を考え合うことを目的としています。

当日は、受付で「属性カード」を引き、そのカードには性別・年齢・家族構成・自宅の場所・職業・健康状態・今の状況などが記載されており、一人ひとり全員違います。研修中は、その人物になりきって、避難について考え、行動するという疑似体験をしました。

参加者が他の人になりきることで、「今まで考えもしなかったことを考えた」、「避難するタイミングが難しかった」、「日頃からご近所付き合いや声かけ・助けあいが必要だと感じた」・・・などの感想がありました。参加者は真剣に取り組み、改めて自分自身や地域のことを考える良い機会になりました。

それぞれの自治会で、いざという時慌てないで行動できるように、日頃から準備をして、人間関係づくりにも力を入れていきたいと思います。



【同地区のグループで自己紹介】



【避難所の様子】



【避難するかしないか、難しい・・・検討中】

